

世界がわかる授業

越谷北高等学校長 下山 忍

本校では、10月31日（木）に、アメリカ大使館職員のジェフ・アドラーさんを招いて、1年生対象の「世界がわかる授業」を行いました。この授業は、「人間としての在り方生き方に関する教育」の一環として実施しており、異文化理解を深め、海外へ目を向けるきっかけとすることを目的としています。最近、国の教育再生実行会議においても「グローバル人材の育成」について討議されましたが、現職のアメリカ大使館職員のお話を伺う機会を設定でき、本校生徒の皆さんにとって「世界を知る」ための貴重な機会になったと思っています。

アドラーさんは、お仕事上、日本語に堪能な方でしたが、この日の講演では、英語だけで話してくださいる部分もかなりありました。内容は、自己紹介に始まり、一般的なアメリカの高校生活についての説明、さらに日本についての思い、日本の高校生へのメッセージでした。時折、ハローウィンの話やメジャーリーグで活躍する上原投手の話なども交えながら進めてくださいました。



日本については、かつては戦った敵国であったが、今では共通の価値観と相互理解に基づくアメリカの強力なパートナーであり、両国の友好・信頼関係に基づく同盟が世界に貢献していると言われていました。53年前に締結された日米安全保障条約や、2年前の東日本大震災における「トモダチ作戦」についても触れられていました。そして、両国の絆を強めるのは政府や外交官だけの努力だけでは不可能であり、「人と人との結びつき」が非常に重要であり、そのために、日本の高校生にはぜひ積極的に留学をしてほしい、と言われていました。1998年には約4万6000人いた日本からアメリカへの留学生が、現在はその半分にも満たない2万人程度であり、国別で見ると中国・韓国・インドに及ばないということでした。

講演に引き続き、質疑応答の時間があり、数名の生徒から英語や日本語で活発に質問があり、アドラーさんから丁寧にお答え頂きました。こうした機会に積極的に質問できることもとても大切なことです。短い時間でしたが、1年生の皆さんにとっても貴重な体験になったのではないのでしょうか。

先に、私は「グローバル人材」という言葉を使いましたが、文部科学省の『グローバ

『人材育成推進会議中間まとめ』（2011年6月）によれば「グローバル人材」とは、①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性、柔軟性、責任感、使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーを備えた人材とされています。語学力はもちろんですが、そのバックボーンとしての様々な要素も挙げられています。これらの資質・能力について、生徒の皆さんには、北高での日々の授業や学校行事、部活動等を通じて身に付けて行ってください。



なお、同書によれば、グローバル人材の「語学能力水準」を、①海外旅行会話レベル、②日常生活会話レベル、③業務上の文書・会話レベル、④二者間折衝・交渉レベル、⑤多数者間折衝・交渉レベルという5つの段階で示しており、①～③レベルの拡大という現状を踏まえ、④・⑤レベルの人材層の一定数の確保を課題としているとのことです。招来、社会で活躍する生徒の皆さんには、こうし

たことも念頭に置いて、留学など様々な経験も含め、高校・大学でしっかりと学んで行ってくれることを期待しています。